# 絶滅危惧種のモニタリング調査等結果【モニタリング ID12 関連】

## １．希少種・固有種等の調査（生息状況モニタリング）

### （１）調査概要

H28 年以降、国内希少種確認地点を中心とした新規モニタリング地点が増加したことをうけて、これまでのモニタリング地点（107 地点）のうち、以下の条件を満たす地点（60 地点程度、調査対象種は 86 種）を選抜し、優先的に調査することとした（図 1）。調査方法は過年度と同様である。

今年度は、そのうち 21 地点（調査対象種は 54 種）のモニタリングを実施した（下図：緑部分）。

参考：モニタリング地点の選定基準（R2 年度）

① 地生種５種以上

② 全地点のうち、出現回数が 1 地点のみの種の確認地点

③ 20 個体以上の調査対象種を確認した地点

**※場所・確認種等の条件が類似している地点は適宜選別している。**

図 1　モニタリングサイト

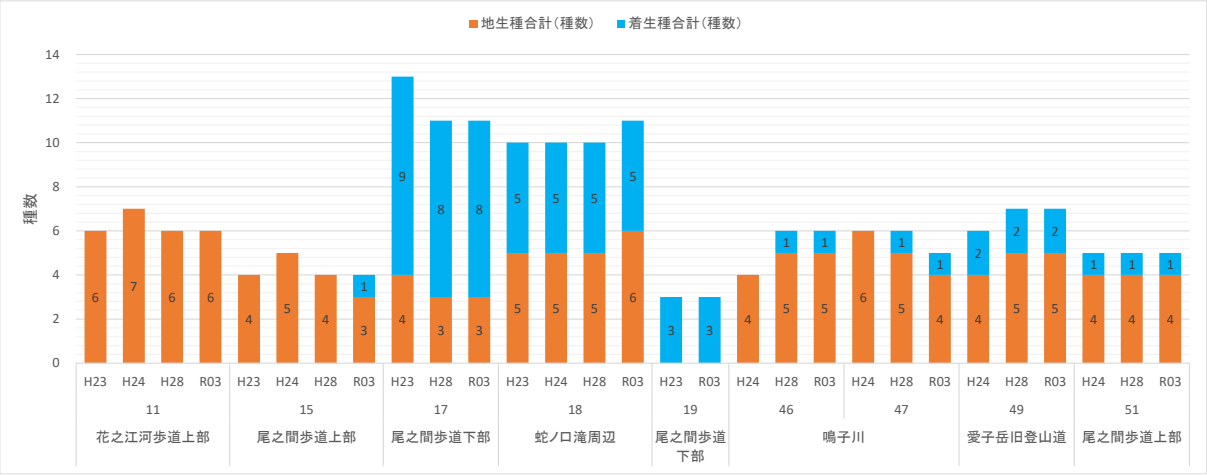
（２）実施結果

① 種数の経年変化

・H28 の結果と比較して、21 地点中 6 地点で地生種の種数が減少した。一方で、6 地点で地生種の種数が増加した。種数が消失した 5 地点の位置を図 4 に示す。

・種数が減少した地点の消失種はヤクシマコケリンドウ、ヤクシマチドリ、ナガバトンボソウ、ウスギムヨウラン、ミドリムヨウランなどであった。

・着生種については、１地点のみ種数が減少した。また 1 地点で増加した。



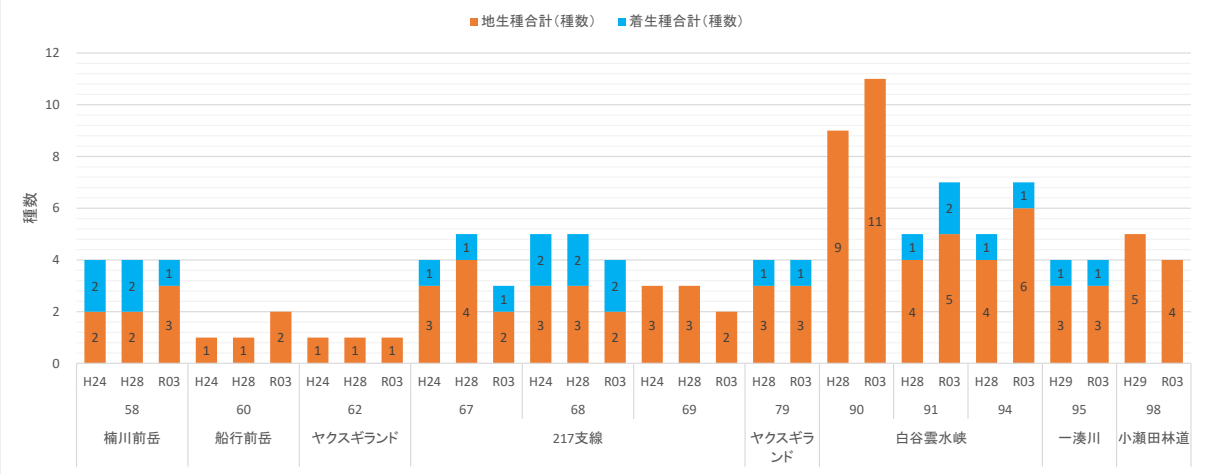
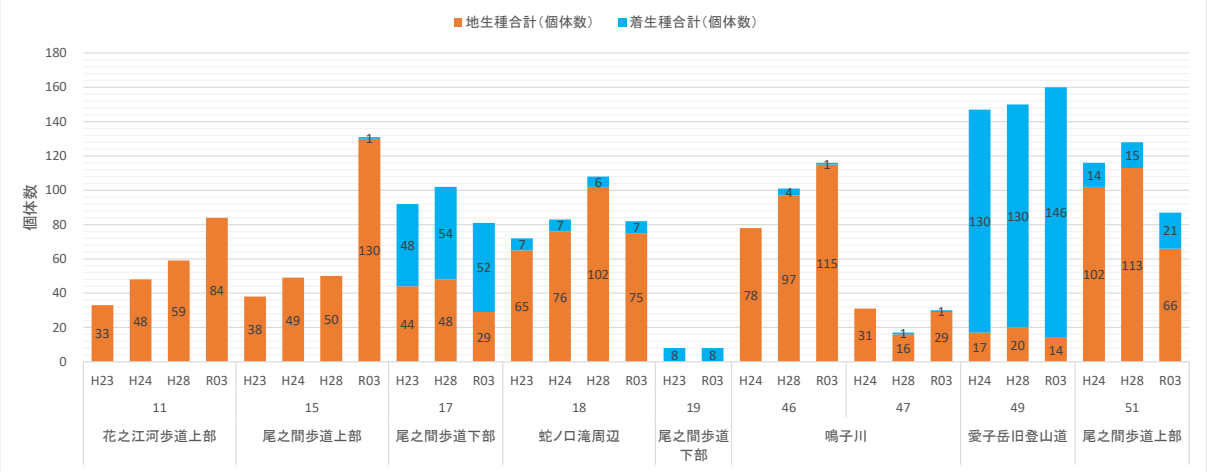




図 2　各地点の確認種数の経年変化

## ②　個体数の経年変化

・H28 の結果と比較して、21 地点中 10 地点で地生種の個体数が減少した。一方で、10 地点で地生種の個体数が増加した。（図 4 参照）

・地点毎に、1 種につき半数以上の個体が消失したのは、No. 17、No. 18、No. 47、No. 49、No. 51、No. 58、No, 67、No, 68、No, 69、No, 79、No. 95、No. 98 の 12 地点であった。これらの地点の中には沢沿いの地点も含まれた。種としては、ヤクシマシュスラン（No. 17、No. 18）、ヤクシマコケリンドウ（No. 67、No. 69）など、小型の種が多かった。また、ウスギムヨウラン（No. 47、No. 98）、ヤクシマヤツシロラン（No. 95）、ミドリムヨウラン（No. 98）といった菌従属栄養植物も含まれていた。



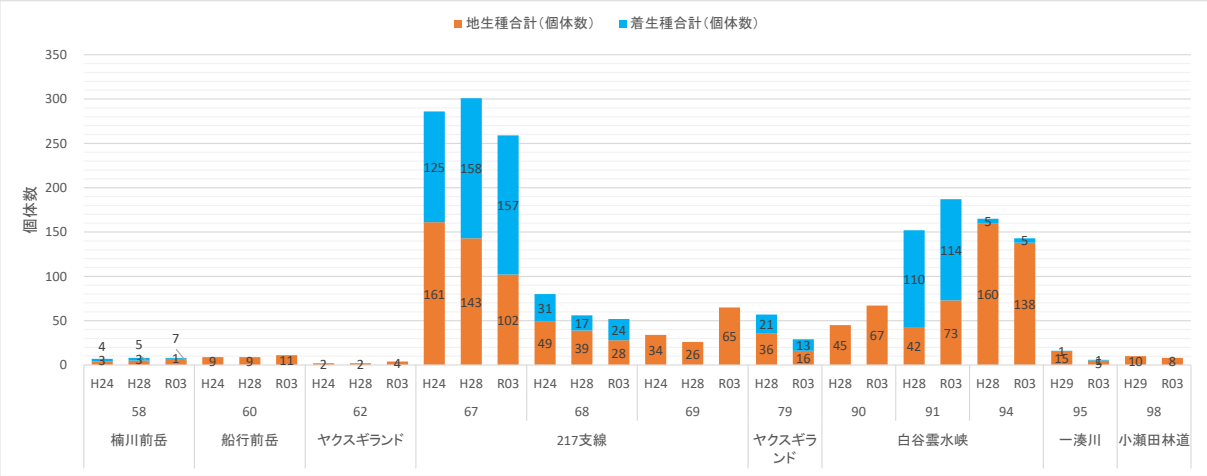




図 3　各地点の確認個体数の経年変化

図 4　H28 から R3 にかけて種数もしくはある特定の種の個体数が減少した地点

※個体数は地点毎に、1 種につき半数以上の個体が消失した地点

・①、②の結果では、消失した要因は明らかでないが、種によって、ヤクシカによる採食や岩場や沢沿いに生育する個体の自然落下や水流の影響などが考えられる。

・今後も継続してモニタリングを実施し、増減の要因を考察する必要がある。

③　国内希少種の生育状況調査

・種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されている種の生育が確認されている調査区が 21 地点中、7 地点含まれていた。（生息地の情報は種の保護のため省略）

・7 地点では、4 種の国内希少種（シマヤワラシダ、ヤクシマタニイヌワラビ、アオイガワラビ、ヤクシマヤツシロラン）が確認され、過去の調査結果との比較から、確認地点数は 1 地点増加した。一方で、4 地点で個体数が減少した。減少したのはシマヤワラシダ（3 地点）、ヤクシマヤツシロラン（1 地点）であった。